

# 大川小の帰らぬ妹 思い映像に

## 「地元の人にも見てほしい」



▶映画「春をかさねて」で、主人公の少女（右）と幼なじみがバスに乗る場面。佐藤そのみさん 提供

（2019年、45分）には、佐藤さん自らの体験を重ねた。主人公は震災で妹を亡くした14歳の少女。同じ境遇にある幼なじみとの連れ合いや友情を描く。撮影の多くを廃校となつた大川小の旧校舎内で行い、地元住民にもエキストラで出演してもらつた。

ドキュメンタリー映画「あなたの瞳に話せたら」（19年、29分）には、佐藤さんら3人の若者が登場し、震災で失った家族に宛てた手紙を朗読する。あの

### 石巻出身・佐藤さん 2作品上映

震災時、大川中2年だつた佐藤さんは、自宅において

無事だつた。だが、大川小6年だつた妹みずほさんになつた。

（当時12）は学校にて津波にまれた。同小ではみずほさんを含め児童・教職員計84人が死亡・行方不明になつた。

科に進学した。様々な葛藤があつた。それでも「今の思いを形にしないと人生を前に進められない」と考え、在学中に二つの作品を仕上げた。

劇映画「春をかさねて」（2019年、45分）には、佐藤さん自らの体験を重ねた。主人公は震災で妹を亡くした14歳の少女。同じ境遇にある幼なじみとの連れ合いや友情を描く。撮影の多くを廃校となつた大川小の旧校舎内で行い、地元住民にもエキストラで出

演してもらつた。

ク代表の只野哲也さん

（23）は「震災前の大川の風景が戻つた気がして、温かな気持ちになれた」と、地区出身者が集まる機会になつた上映を喜んだ。

東日本大震災の津波で旧大川小学校（石巻市）に通つていた妹を失つた女性による自主製作の映画2作品が今月、市内の大川地区で上映された。製作・監督は地元出身の佐藤そのみさん（26）。妹を失つた心境を描いた映像作品に約200人が見入つた。



上映前にあいさつする佐藤そのみさん＝石巻市福地

# 形にしないと人生前に進められない

日と向き合いながら自分がどう過ごし、今を生きているかを語りかける。

作品はこれまで石巻市中

心部や仙台市、高知市など

で上映されたが、大川地区

では初めて。地域活動拠点

「大川コミュニティセンター」の管理人遠藤仁雄さん（68）が、昨年夏に開所した

同センターで旧住民らにも見てもらいたいと企画し

た。

佐藤さんは上映後、「大川の人たちに見てもらいたいと思って作った」と話した。現在、東京で会社員として働く佐藤さん自身、周囲に震災体験や思いを打ち明けにくかつた、と感じる。「映画を通じて、同じようにつらい時期を過ごした大川の人たちと思いを共有し、安心してもらえれば」と語る。

佐藤さんは、映画を通じて、被災者として取材カメラを向けられ、「かわいそな子」と切り取られた。自分が自分じゃないような気がしていた。それを表現したかった」と佐藤さん。高校卒業後、大川小と震災をテーマに映画をつくりたいと、日大芸術学部映画学科に進学した。様々な葛藤があつた。それでも「今の思いを形にしないと人生を前に進められない」と考え、在学中に二つの作品を仕上げた。

劇映画「春をかさねて」（2019年、45分）には、佐藤さん自らの体験を重ねた。主人公は震災で妹を亡くした14歳の少女。同じ境遇にある幼なじみとの連れ合いや友情を描く。撮影の多くを廃校となつた大川小の旧校舎内で行い、地元住民にもエキストラで出

演してもらつた。

ドキュメンタリー映画「あなたの瞳に話せたら」（19年、29分）には、佐藤さん（23）は「震災前の大川の風景が戻つた気がして、温かな気持ちになれた」と、地区出身者が集まる機会になつた上映を喜んだ。